

卸売業

回答企業29企業

概況

～業況判断DI値 全項目で大幅改善～



今期の業況判断DI値は、前回調査比48.3ポイント上昇の0.0と大幅改善し、前回調査予想値(▲13.8)を上回る結果となった。項目別では、売上・受注で58.6ポイント上昇の24.1、売上数量が55.1ポイント上昇の17.2、利益でも58.6ポイント上昇の17.2と全項目で大幅改善となった。

野菜・果実卸売業のりんご販売が本格化、季節的要因により総体を押し上げる結果となった。

分野別の状況

～総合的業況は大幅改善で推移～

酒類等卸売業は、10月酒税増税実施前の駆け込み需要の反動があつて、売上落ち込んだものの、前年同期比やや増加にまで回復している。

食料品卸売業は、売上高はやや増加となったが、仕入価格や経費の上昇により、業況はやや悪化となった。

野菜・果実卸売業は、台湾などで競合する米国産の不作や円安の影響で、2022年産りんごは高値で良好な販売環境になっている。

衣料品卸売業は、コロナ禍においても受注数が増加傾向にあり、総体的な業況も良好に推移した。

建設・建設資材卸売業は、資材価格上昇も価格転嫁により売上増加、利益も確保し業況順調に推移した。

地域基幹産業のりんご産業が最盛期を迎え、総体を押し上げる結果となつた。

来期の見通し

～業況判断DI値 大幅悪化の見通し～



来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比48.3ポイント低下の▲48.3と大幅悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で75.8ポイント低下の▲51.7、売上数量が62.0ポイント低下の▲44.8、利益でも62.0ポイント低下の▲44.8と全項目で大幅悪化の見込みとなった。

季節的要因の他、仕入れ価格の高騰、経費の増加が続くと予想され、業況は厳しく大幅悪化の見込みとなった。

業況判断DI値の推移



小売業

回答企業91企業

概況

～業況判断DI値 やや悪化～



今期の業況判断DI値は、前回調査比3.3ポイント低下の▲19.8とやや悪化し、前回調査予想値(▲31.9)を上回る結果となった。項目別では、売上・受注で2.2ポイント低下の▲8.8、売上数量が2.2ポイント上昇の▲7.7、利益では横ばいの▲14.3と売上数量がやや改善、売上・受注でやや悪化となった。

仕入価格高騰に対し価格転嫁に苦戦。依然として厳しい状況が継続している。

分野別の状況

～総合的業況はやや悪化で推移～

食料品・酒類小売業は、新型コロナウイルス感染症の影響は少なくなったが、原材料等の値上げにより厳しい状況が続いている。

売上は前年並みに推移したが急激な円安や原油価格高騰により、仕入価格が2割以上増加した。

今年に入り梱包材3回、外国産牛肉は2回値上がりするも、販売価格は据え置いたままで、価格転嫁が進まない状況にある。

漆器・墓石小売業は、支援機関より商品開発・販路開拓の支援を受け、売上高・利益は例年並みに推移した。

建設資材・農業機械小売は、半導体不足が未だに続いており、納品遅れ・仕入価格上昇などの影響で業況はやや悪化した。

燃料等小売業は、原油価格高騰により販売価格の値上げを行い、売上・利益とも増加となった。

家電小売業は、顧客からの価格転嫁に対する理解も得られ、例年並みの売上確保となっている。

来期の見通し

～業況判断DI値 悪化の見通し～



来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比18.7ポイント低下の▲38.5と悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で25.3ポイント低下の▲34.1、売上数量が25.3ポイント低下の▲33.0、利益でも23.1ポイント低下の▲37.4と全項目で悪化の見込みとなった。

来期についても、仕入価格のさらなる高騰が予想され、価格転嫁に苦慮、依然として厳しい業況が継続する見込みとなった。

業況判断DI値の推移

